

令和 6 年 度

前 期 日 程

英 語 問 題

〔注 意〕

1. 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
2. 受験番号は、解答用紙の受験番号記入欄及び受験番号マーク欄に正確に記入・マークすること。なお、マークは該当する数字を塗りつぶすこと。
3. 問題冊子のページ数は、表紙を除き 9 ページである。脱落している場合は直ちに申し出ること。
4. 解答用紙は 1 枚である。
5. 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
6. マーク式解答は、解答用紙のマーク欄にマークしなさい。例えば(ハ)と解答する場合は、次の例のように㊸を塗りつぶしなさい。

(例)

(i)	㊱	㊲	●	㊴	㊵
-----	---	---	---	---	---

7. 問題冊子の余白は、適宜下書きに使用してよい。
8. 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
9. 問題冊子は持ち帰ること。

I 次の英文(A)と(B)を読み、それぞれの下線部の意味を日本語で表しなさい。

(A)

著作権の関係により、公開しません。

(B)

著作権の関係により、公開しません。

Ⅱ 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

著作権の関係により、公開しません。

著作権の関係により、公開しません。

著作権の関係により、公開しません。

設問(1) 下線部(i)~(vi)の語句の本文中での意味に最も近いものを、(イ)~(ニ)から 1 つ 選び、解答欄の選択肢を塗りつぶしなさい。

(i) merge

- (イ) accelerate (ロ) combine (ハ) halt (ニ) separate

(ii) opulence

- (イ) gravity (ロ) space (ハ) spark (ニ) wealth

(iii) ramifications

- (イ) causes (ロ) consequences
(ハ) explosions (ニ) relationships

(iv) artifact

- (イ) civilization (ロ) creatures (ハ) documents (ニ) remains

(v) consuming

- (イ) absorbing (ロ) becoming
(ハ) buying (ニ) producing

(vi) ripe for

- (イ) full of (ロ) lacking in
(ハ) ready for (ニ) resulting from

設問(2) 下線部(A) that は具体的には何を指しているか、日本語で答えなさい。

設問(3) 下線部(B) their absence puzzling astronomers とはどのような状態を指すのか、本文の内容に即して日本語で説明しなさい。

設問(4) 本文において、下線部(C) who's the culprit? の答えの可能性として具体的に考えられているものは何か、本文中から英語ですべて抜き出さない。

設問(5) 下線部(D)において important と述べられている理由を、45 字以内の日本語で説明しなさい。句読点も 1 字に数えます。

設問(6) 本文全体の主旨を最もよく表している文を下記の(イ)~(ホ)から 1 つ選び、解答欄の選択肢を塗りつぶしなさい。

(イ) The fate of our galaxy is played out in a slow but surprisingly dramatic cosmic dance.

(ロ) The Milky Way determines the movement of a large group of some 100 galaxies.

(ハ) The myth of the astronomers and the development of our galaxy became a film in Europe.

(ニ) The primary cause of the birth of new stars in the Milky Way remains debatable.

(ホ) The speed at which stars and galaxies move seems very slow to human beings.

Ⅲ 大学において、あなたが理想とする学びとはどのようなものですか。具体例を挙げて、80 語程度の英文で述べなさい。

Ⅳ 次の日本文(A)と(B)のそれぞれの下線部の意味を英語で表しなさい。ただし、(B)では文学部の志願者は(イ)を、文学部以外の学部の志願者は(ロ)を選んで解答しなさい。

(A) (すべての学部の志願者)

たとえば、「そもそも、人間は他人の心を理解できるのだろうか?」とか、「そもそも、他人を理解するとは、いったいどんなことか?」。あるいは、「そもそも、他人に心があるとどうして分かるのか?」。

こうした疑問は時間がたつにつれて、ふつうは忘れ去られてしまうようです。とはいえ、忘れたからといって、疑問が解決されたわけではありません。
時々、思い出したり、疑問が広がったりするのではないのでしょうか。

実を言えば、いつの間にか忘れてしまった「そもそも」問題を、あらためて問い直すのが「哲学すること」に他なりません。哲学は、過去の哲学者の学説を知るのが目的ではありません。

(岡本裕一朗、2023、『哲学 100 の基本』東洋経済新報社 より一部改変)

(B)

(イ) (文学部の志願者)

たとえば、存命中のひとをモデルに小説を描く場合、何よりもまず当人のお許しを頂き、その上で、丹念に取材をさせて頂くことが必須です。フィクションだから何でも許される、というわけでは決してないのです。では、そのひとが既に故人だった場合はどうでしょう。「既にその死から何百年も経過している」「歴史上の偉人として研究し尽くされている」といったケースでは縛りが緩くなることもあるでしょうが、それに当たらない場合は、どうでしょうか。

かつて「あい 永遠に在り」という作品で、実在した関寛斎とその妻あいを描いた時に、随分と悩んだ問題です。

(高田郁、2023、『晴れときどき涙雨』角川春樹事務所(ハルキ文庫) より一部改変)

(ロ) (文学部以外の学部志願者)

人々は以前ほどマスメディアの言うことを鵜呑みにはしなくなった。しかし、それで果たして社会は良くなったのであろうか。

取材をし、記事を書き、ニュースを発信するのが人間である以上、報道は全て正しいとは限らない。また、報道が届く人々の範囲の広さを考えても、個別の記事や番組に対する批判は、あつてしかるべき重要なものである。しかし、批判の対象が「マスメディア」「マスコミ」となったとき、それが本当に対象を理解したうえでの批判なのか、その批判が民主主義にとって有益なのかという問いに、今一度立ち戻るべきではないだろうか。

(稲増一憲. 2022. 『マスメディアとは何か』中央公論新社(中公新書) より一部改変)